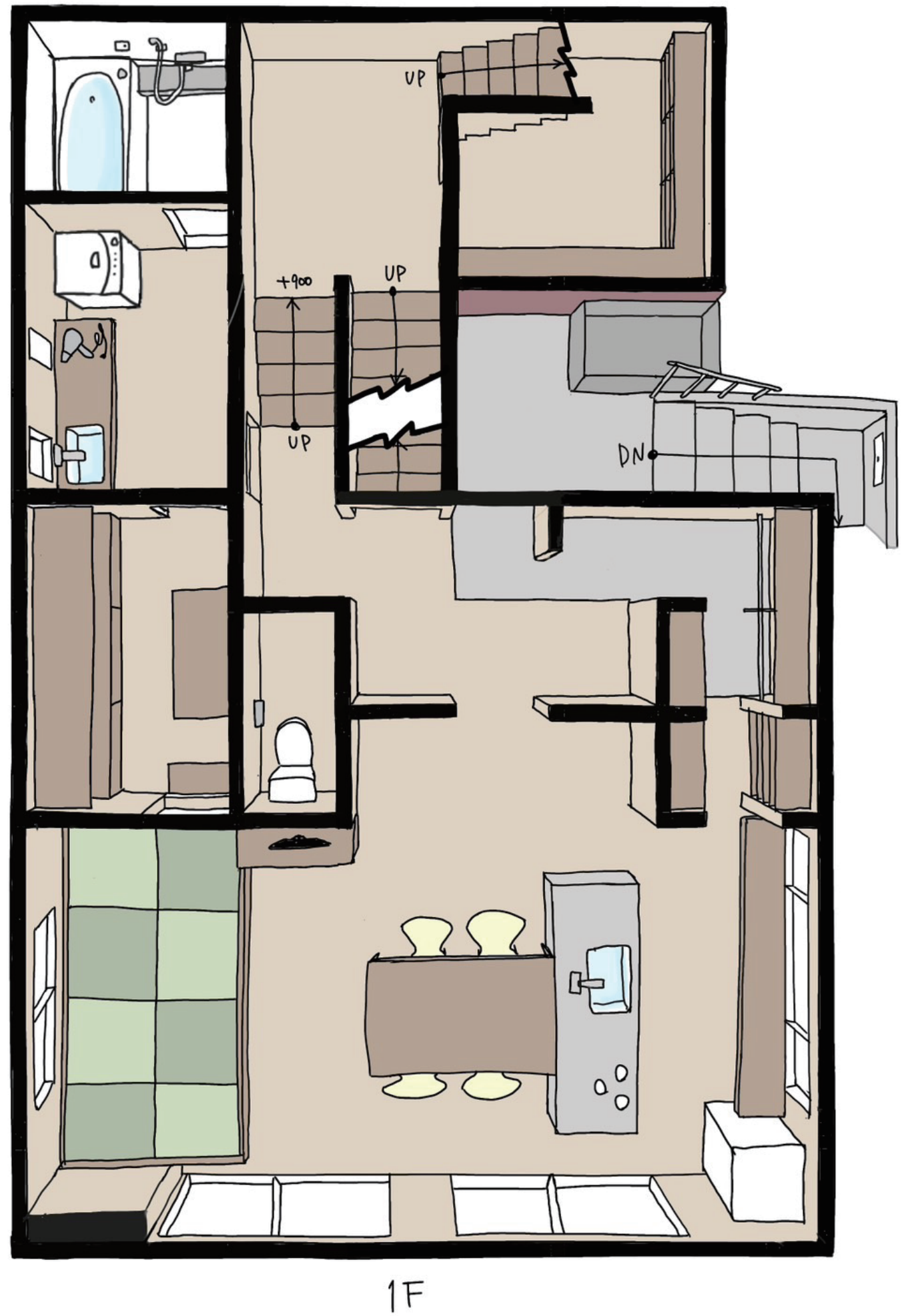


T 宅の提案 1:50

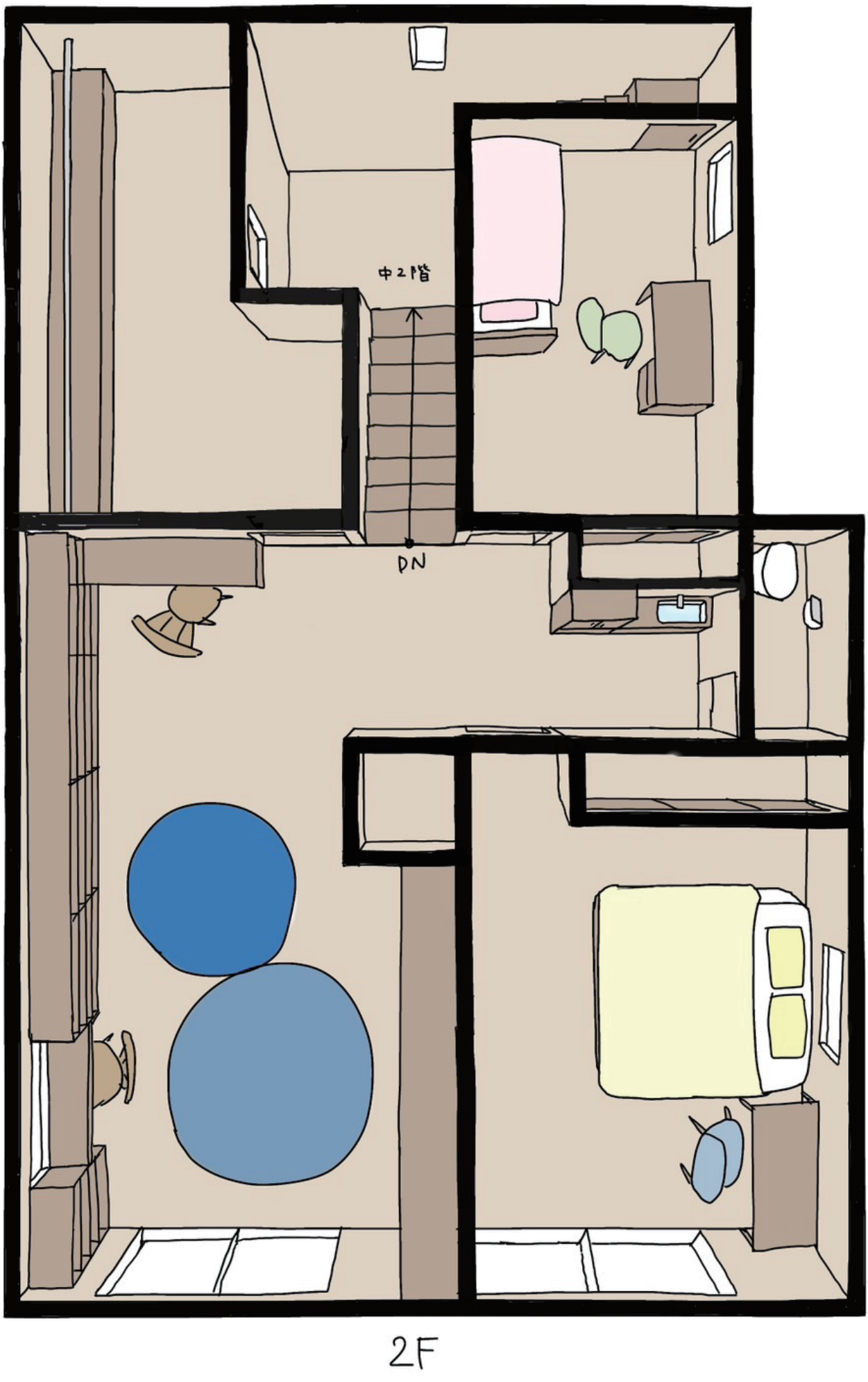
1M



0F



1F



2F

T 宅外観

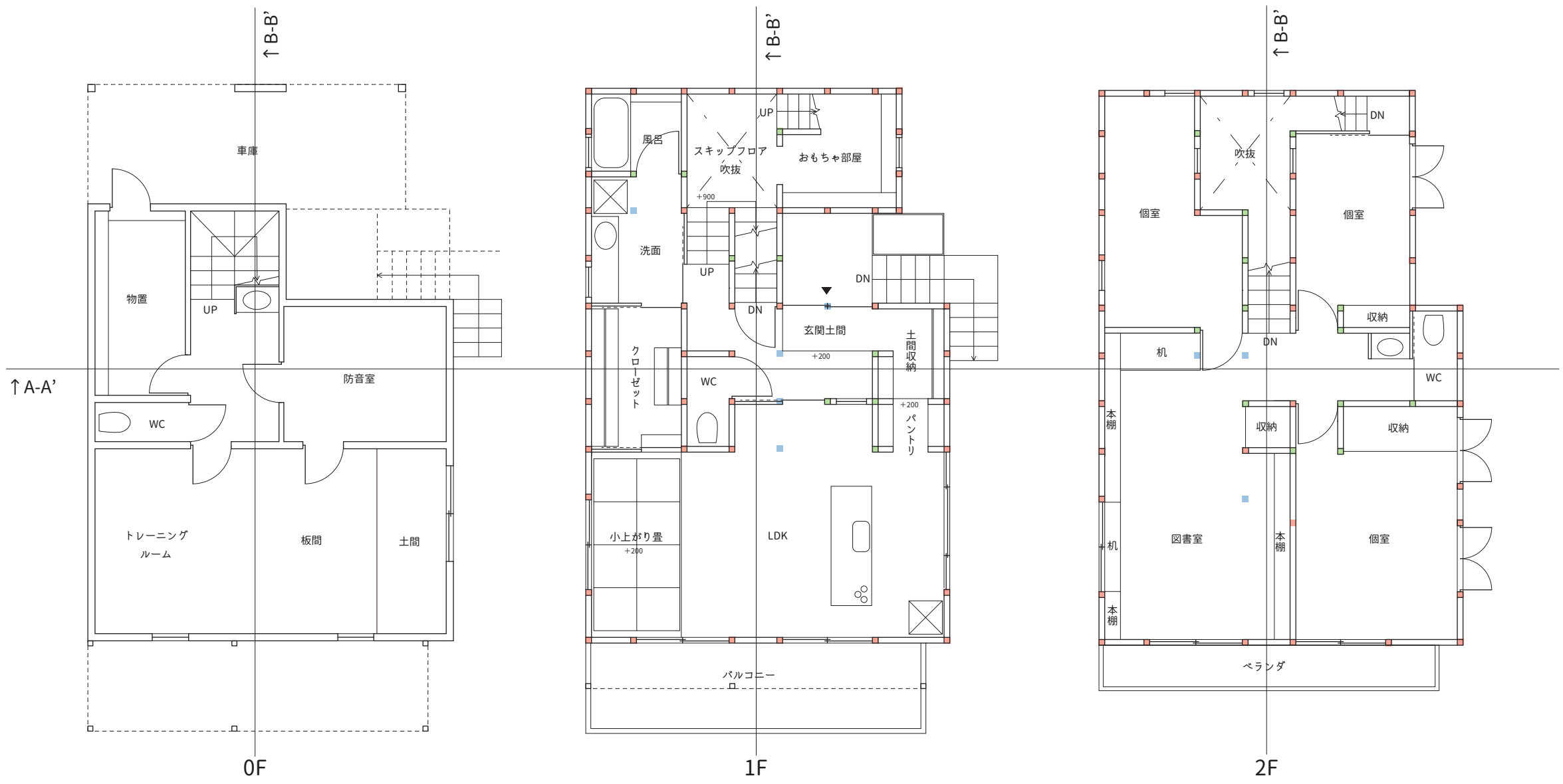


T 宅の外観の変化はほぼ無し。
不要となった勝手口をなくし、外階段を降りる向きを勝手口側に変更。
階段の傾斜を緩くし、濡れると滑りやすく危険な状態を改善。
元の設計時から設置を計画されていたリフトを老後の両親のために設置。
北側車庫の奥の天井は、上にお風呂があるため 80cm 下降。
T 家完成時にみんなで作った手形は家族からの強い希望でそのままに。
階段は北側車庫から遠く感じないようにデザインを工夫した。
手前のすだちの木と、母の育てる花が出迎えてくれる。

平面図 1:100

■ 残す柱 ■ 撤去する柱 ■ 追加する柱

1M



基礎部分はすべての壁が重要な構造体で、開口部を作ったり撤去したりできない。
お手洗いの配管とその隠し方を工夫した。

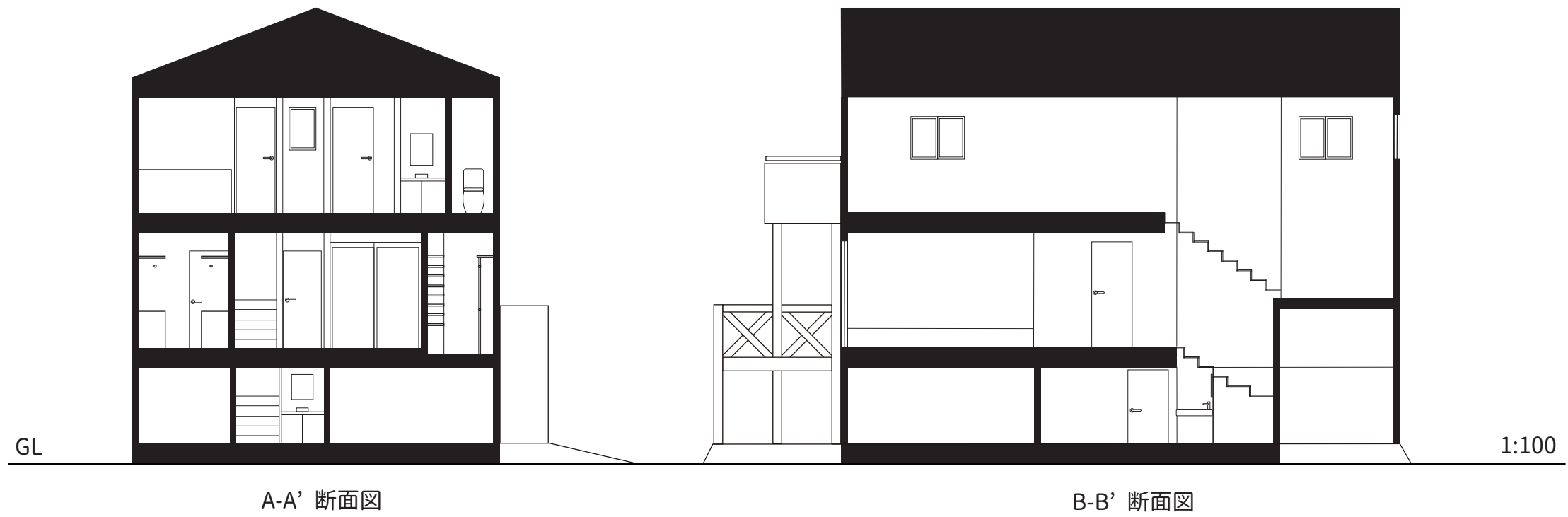
H 型の大柱の部分が撤去不可能で、間取りに制限があった。WC は壁に断熱材を入れ、リビングから扉 2 枚隔てることで防音効果を持たせる。

1F と同じ H 型の部分を残した。
吹抜のスキップフロアを作る分、窓を減らし、ロフトを天井で閉じて全体の断熱性を上げる。



南側立面図

東側立面図



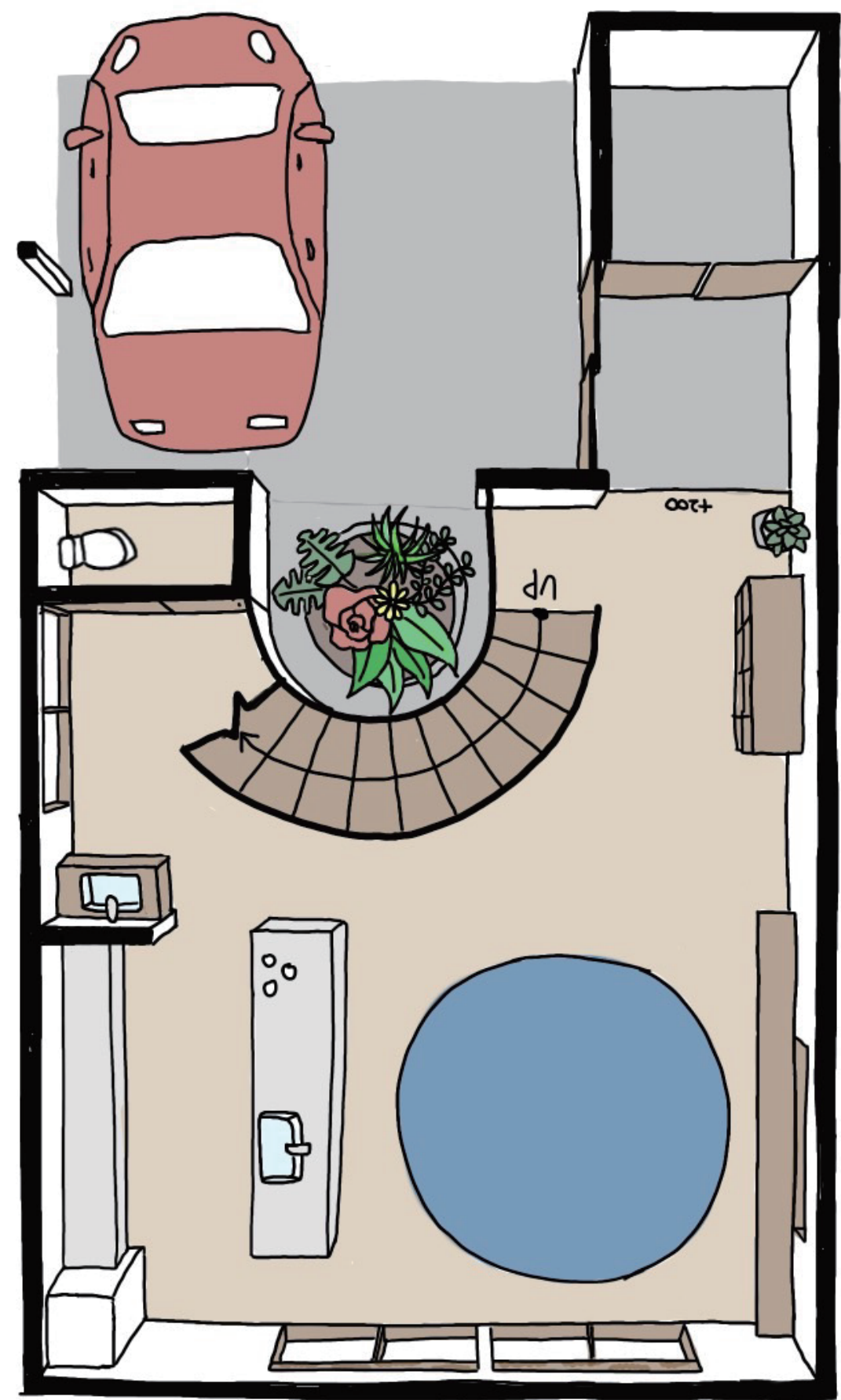
A-A' 断面図

B-B' 断面図

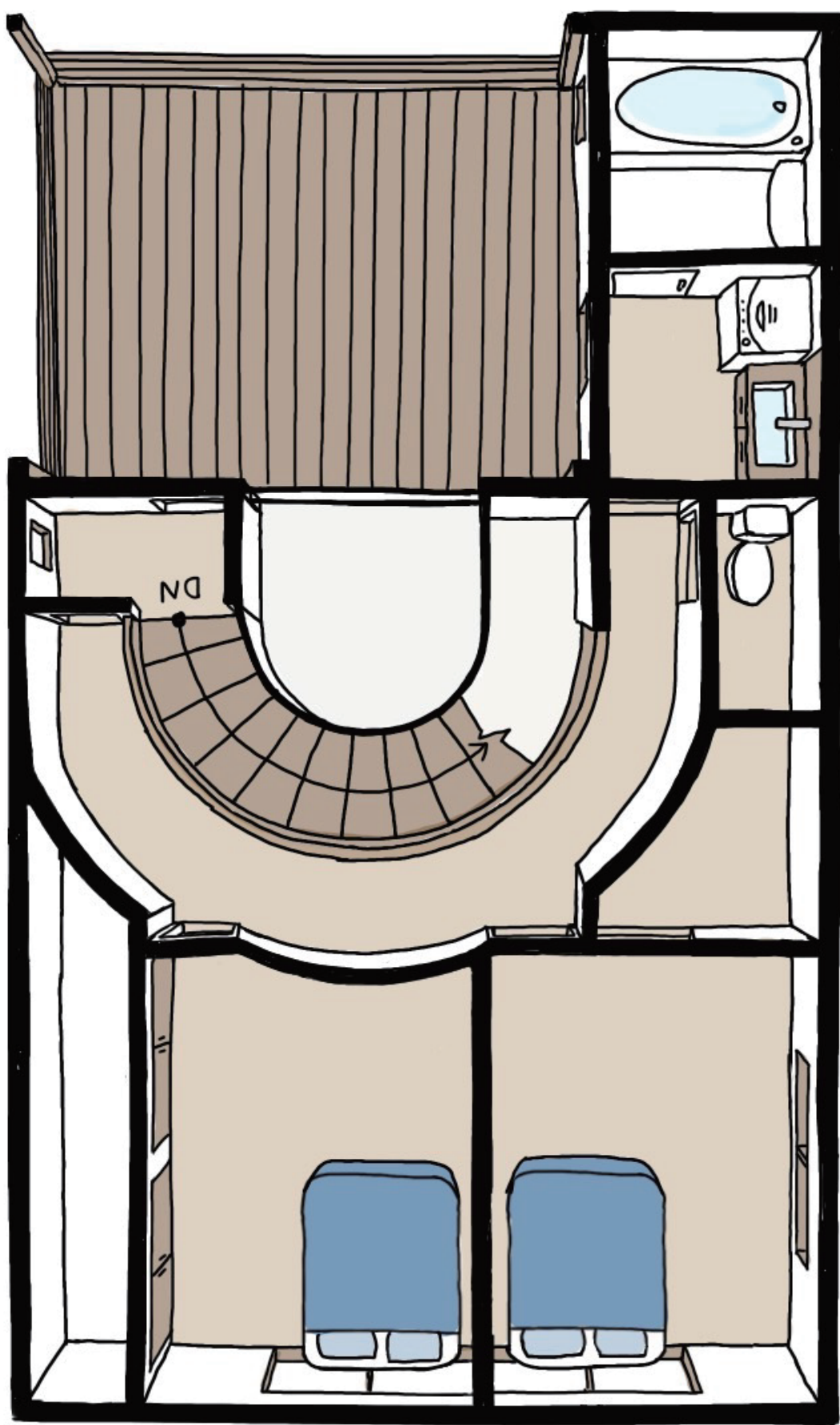
屋根伏図 1:100



屋根形状は変化なし。
階段の降り口を変更し、車庫への干渉を考えなくてよいため段数を増やしてゆるやかにした。



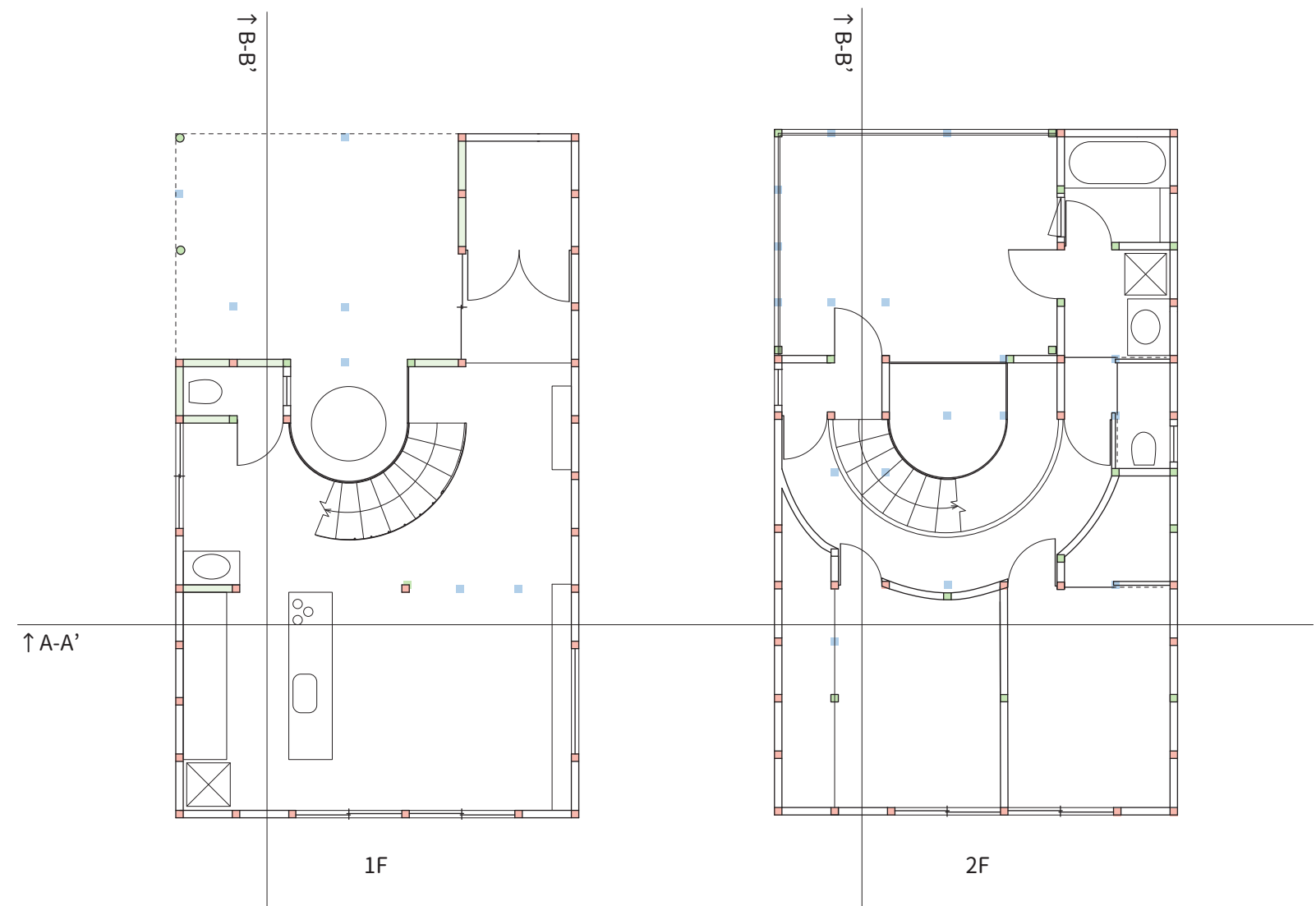
1F



2F

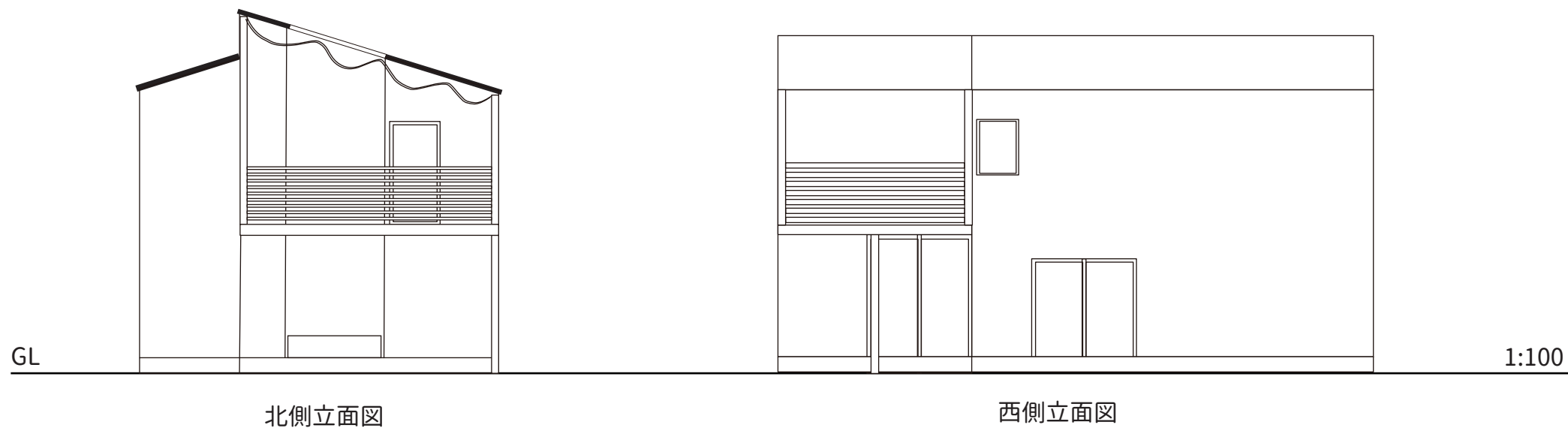


P 宅は外観を大幅に変更した。元の車庫は4.5畳しかなく、道路がとても狭いこととゲートや後付け倉庫もあいまって駐車に技術が必要だった。軽自動車ですらぎりぎり、道路の狭さと電柱のせいで前向き駐車でないとい入らない。写真からもわかるように乗用車を置くと車体がおさまらず、乗降車は片方からのみ。この状況を改善するため車庫の壁を下げて減築という形をとった。車庫は倍以上の10畳に広げた。これにより車庫の間口を4m以上確保することができた。またアプローチ階段をなくすことで実質的に道路幅が広がり、乗用車でも楽に駐車可能になった。降りたらそのまま濡れずに帰宅できるし、自転車も2台置ける。減築部分の2階は祖母の寝室だった場所。外壁と屋根を取り払ってバルコニーに変更し、北側と感じさせないほど気持ちいい空間に。シェードは並行に渡した数本のワイヤーに布をかぶせ、ワイヤーを束ねたり広げたりすることで日差しの調節が可能。変化しない部分は、電柱、壁の色、そして屋根瓦。P 宅はT 宅と違ってあまり変化することをいとわない意見が多かったが、白い壁とマスタード色の屋根瓦に関してはトレードマークであるという認識だったためそのままにした。



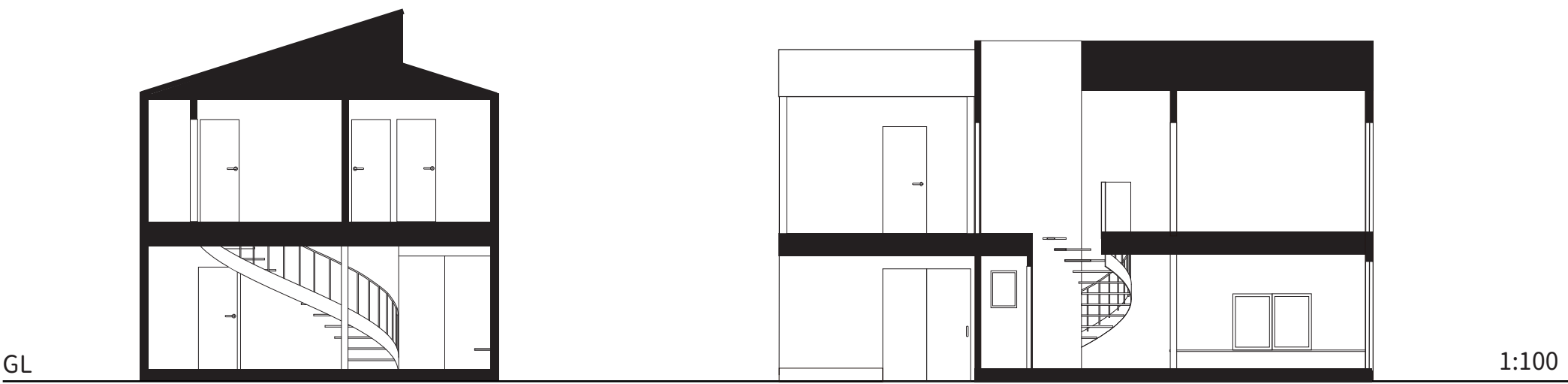
1Fは車庫の拡大に伴い減築を行ったため、車庫に面した外壁は補強して耐震性を保つ。LDKもほとんどの壁を取り払うため、残す柱の位置の検討や最小限の壁で梁を支える検討などを行った。

前回リフォーム時に南側の柱の腐食が進んでいるとの工務店からの指摘を受け、南側の柱は位置は変えずに新しいものに差し替える。2階の廊下の壁は螺旋階段に合わせて湾曲しているが、できるだけ元の柱を残せるようにした。



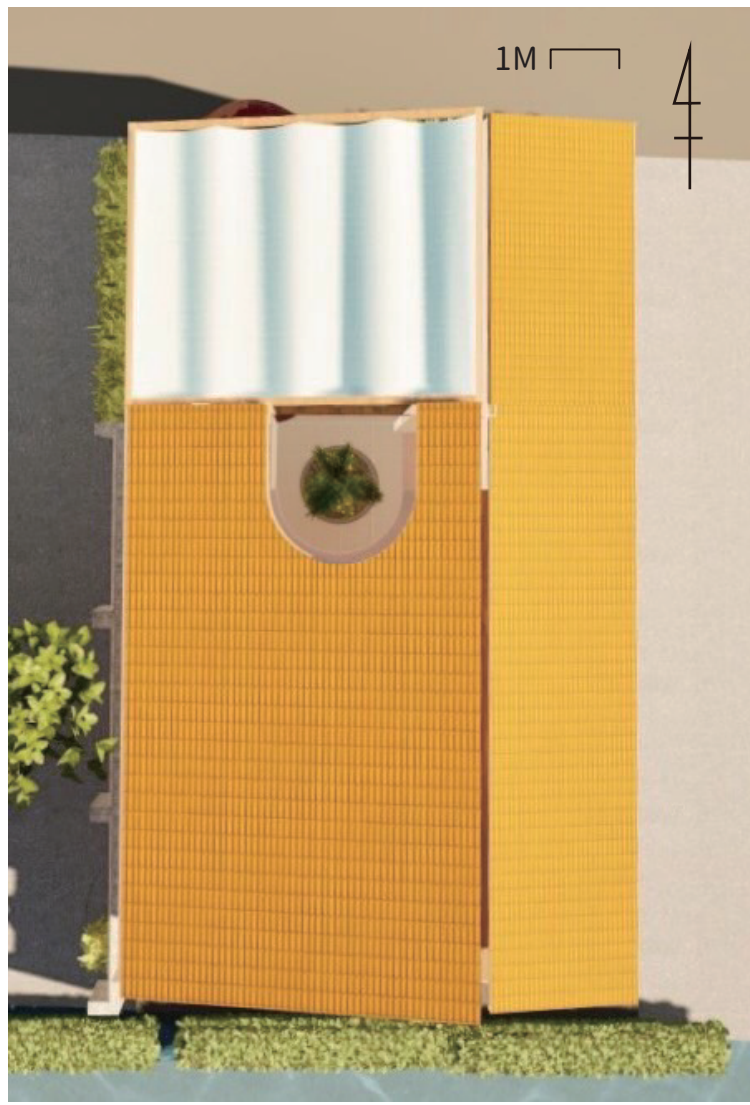
北側立面図

西側立面図



A-A' 断面図

B-B' 断面図



屋根瓦はそのままだが、形を大きく変更した。寄棟だったのを三角屋根？に（ここ要確認）形を変える理由は、光庭が建物の中心を貫くせいで寄棟のままでは処置が難しく雨漏りのリスクが上がるためと、今回は予算を気にしない計画のため。小屋組も変更される。周囲は田んぼが埋められどんどん新築が増えており、日々変化する街並みに取り残されないような外観に。しかし「変わってしまった」という印象を抱かないよう黄色い屋根を残した。空き家同然だったP 宅は、シェードの大きな帆をあげて新たな船出をむかえる。次女の英会話教室、そして不定期開催の子ども食堂。新たな住宅街ができて子育て世帯が流入し、どんどん生まれ変わるこの地域でP 宅も生まれ変わる。地域の子どもたちが集まり、育ち、そして巣立つ場所に。黄色い屋根、白い壁、木でできた大きなバルコニーが今後この地域のシンボルマークになりますように。